

幼 兒 教 育 研 究 雜 誌

母 子 と 女 子



第 九 卷 第 十 一 號

目 次

- 一年の好節時
徳 宮 蘇 峰
- 幼稚園出身者の成績に
和 田 東 洋
就いて
藤 田 東 洋
- 幼稚園改良案
雨 峰 生
- 都會に於ける小兒保
育上の注意
蜂 間 信 吉
- 如何なる兒童が取扱に骨
が折れるか
金 森 夫 人
- 母としての實驗談
鹽 野 奇 零
- 第一期の家庭教育
本 郷 生
- 人間の匂ひ
桑 田 芳 藏
- 如何にして美人となるか
記 者
- 配布玩具説明
記 者
- 雜錄

フ レ ー ベ ル 會 發 行

會告

次回の常會(十二月)に於ては左の事項に關する會員諸君の御意見御發表下され度御願申置候

- 一、幼兒をして觀察せしむ可き事物の種類は如何
- 二、右の事項に關し各幼稚園の實行せる狀況は如何

以上

フレイベル會

本會役員

會長 主幹 庶務幹 會計幹 庶務幹 會計幹 庶務幹 會計幹 庶務幹 會計幹

高嶺 池田 黒田 井田 小關 武田 藤井 福井 雨田 下田 實

質問規定

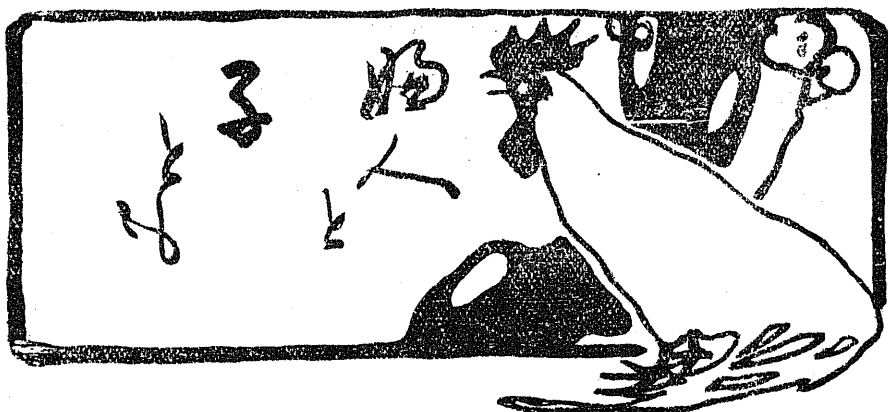
本會は讀者の種々なる質問に應じます婦人と子供と家庭とに關する事なら何でもお尋ねなさい。往復はがきか又は返信封入ならば早速に御答します。公衆に有益だと思ふことは誌上で説明します。

入會又ハ購讀手續

(振替口座東京 一七二六六番)

本會に御入會なさらうとする方は會費一ヶ月金十錢の割合で一ヶ年分をまとめて振替貯金へ御拂込下されば直に登録して雜誌を發送致します。會員にならずに雜誌だけ讀みたい方は此の割合の前金で本會か又は賣捌書店へ御便宜御申下下さい

- ◎ 一冊郵税共金拾一錢
- ◎ 六冊前金郵税共六拾錢
- ◎ 拾二冊同金壹圓貳拾錢
- ◎ 郵券代用一割増



第九卷第十一號

一年の好時節

徳富蘇峯

好天氣に最も快感の動くは、鳥雀と小兒なり。旭日紙窓に映すれば、擔上
 の鳥雀は嚙々たり、縁邊の小兒は欣々たり、彼等無心なり、故に自然の儘に動
 くなり。即有心の人といへども、焉ぞ好天氣に向つて快感なきを得んや。人
 も亦外圍物の兒と知らずや。東京の好天氣は、秋にあり。寧ろ晩秋、初冬
 の際にあり。東坡が一年の好時を目して、橙黄橘緑の節にありと云ひしは、
 東京に於て最も然るを覺ゆ。萩花枯れ、菊英開き、紅葉に及び、更に參天の
 銀杏が琥珀色の瑠璃を滿枝に飾る時に到るまで、碧天拭ふが如く、瀟氣人を洗
 ふ。遠きに登りて望めば、寥廓の長空は、滿郊黄雲に接して、たゞ東に筑
 波の雙尖を見、西に芙蓉の白雲を眺むるのみ。所謂晴空一雁排雲上、直惹詩
 情。到碧露の情は、たゞ東京の晩秋、初冬に於て之を見らば。若し夫れ東
 京の春に到りては、風多く、雨多く、曇天多く、乍ら綿衣を纏れ、乍ら裕衣
 を著け、又乍ら綿衣を脱ぐ。氣候の變、朝以て夕を測る可からず。或は幸に
 て晴霞滿目、淡籠櫻枝を望むる時に於ても、惡風滾々塵を捲き、人をして
 頭痛岑岑たらしむ。要するに東京の花は、天命を以て終るもの始んど稀なり。
 櫻むべし、梅花、桃花、櫻花、梨花、海棠花、皆無殘なる最後を遂ぐ。若し警語を
 以て云へば、京都の花は縦に散じ、東京の花は横に散る、横に散るとは風雨の爲に
 散ればなり。「生非壽命、不爲花」とは東京の春花を葬むる絶好の碑銘に非ず
 や。それ湖畔詩人を産し、大澤英雄を生ず。木炭を燃すの巴里人士は輕快に
 して石炭を焼く倫敦人士は遲重なり。外界の人に於ける、その感化侮る可か
 らざるものあるなり。

今や一年の好時節は東京を見舞へり。此の時に於て、なほ馬蹄車轍の際を遺
 驅し、營々として面上三斗の紅埃を拂ふなくんば、それ此の玉の如き秋色に
 孤負するなからんか。

幼稚園出身者の成績に就いて (承前)

和 田 實

前號に於ても述べた通り現在に於て幼稚園の出身者は果して通常の家庭よりの直接小學者に比して優良なりや否やと云ふとは不明の問題で唯見渡したる所大體に於て多少幼稚園出身者が優等の位置にある様であると言ふに過ぎぬ。唯地方よりの時々の報告は常に優等なる成績を得て居る丈である。そこで吾人は自ら進んで此調査を遣つて見た。併し何時も調査後になつては其調査の方法上に誤謬の點を發見して折角の調査を水泡に歸して仕舞ふことが多かつた。一度は幼兒の出身別が充分に區分されなかつたこともあり一度は各幼兒の得點平均を算出して之を比較したりなどした故に前のは全々誤謬のものとなり、後のは其結果が曖昧で充分な結果を示さなかつた。尤も前號にも掲

げた通り神方の長狭小學校に於ける調査は同様な調査法であつて、然も幼稚園出身者の成績が非常によいと言ふことであるが不幸にして吾人の調査する所では同調査法に因りたる結果は何時も五分五々の勝負となつて其結果は不明である。そして若し兩出身者の數が不均であるときは、いつも人數の多い方が得點平均少くして負けることになつて居る。是は此調査法當然の結果で、止むを得ないものである。故に若し此調査を正確ならしめ様と云ふのには根本に於て兩者の人員數を等數に限る必要がある。併し、其數を等しく限るとしても、若し兩者の何れかに天性特異なるものがあるつたならば調査の結果は亦も非常な狂ひが出るに極つて居る。是は前號に説明した通りである。因つて此調査法は人員に於て兩者を等しくし然も兩者の各幼兒は天性に於て大體同等の状態にあるものを採らなければならぬ。併しこんなことは到底實際に於て行ひ得可きことでない、従つて此方法は適當な調査法と云ふことにはならぬ。そこで吾人は更に別法を取ることにした。それは即ち前號

に於て吾人が尤も適當なる調査法として述べた所のものではある。
 この調査法を施行した所の材料となつたのは東京女子高等附屬小學校第一部第一學年の第一學期間の成績で、明治三十三年から本年に至る十ヶ年間の成績表に因つて調べたものである。從來の此種の調査が主として高學年又は卒業の際に於けるものを調たのに反して吾人は殊更に初學年を選んだ譯は元來、兩出身者の區別は小學校入學の初めに於てこそ其教育の差異著しかる可きも學年の漸次

附屬幼稚園、他公私立幼稚園及ヒ直接家庭出身者ノ
 幼兒教育上ニ於ケル成績比較表

年度別	出身別	總人員	成績優等ナルモノ、人員	同上百分比	成績中等ナルモノ、人員	同上百分比	成績劣等ナルモノ、人員	同上百分比	成績順
三十三年四月 入學セルモノ	他家附屬	二一七	一一二	六〇、九	四〇、一	一一〇	一四、二	三二、一	
三十四年四月 入學セルモノ	他家附屬	一七六	一五六	三二、七	五〇、四	一一二	二四、五	二二、一	
三十五年四月 入學セルモノ	他家附屬	二四〇	一〇三	四二、九	八五、〇	〇〇〇	二五、〇	二二、一	
三十六年四月 入學セルモノ	他家附屬	二二六	五四四	三三、三	六六、六	〇〇四	二五、〇	一一、二	

進むに連れて其差異を少くし遂には平均せしめらるゝに至ることは現在の小學校編成上當然の結果なれば、今兩者の差異を小學校高學年の成績に於て見んとするは少しく無理なものと云はねばならぬからである。即ち兩出身者の差異は小學校入學の當初に於てこそ調査す可き最好時機である。因つて吾人は殊に初學年を採り然も第一學期間の成績を材料として調査した次第である。次表は即ち其結果である。

右の表の中、明治卅六年同三十九年及び本年の三年は、附屬幼稚園の成績は左迄善からず、然も其年が何れも二年間を距て、不成績を現はして居る。是は何か原因があるのではなからうかと思つて調査したけれども別に是と認む可き理由を見出し兼ねて居るが、併し、兎に角此表に因つて附屬幼稚園出身者の成績は決して不良ではないと云ふことが出来る。

合計	入學七十七年四月	入學七十八年四月	入學七十九年四月	入學八十年四月	入學八十一年四月	入學八十二年四月
庭屬	庭屬	庭屬	庭屬	庭屬	庭屬	庭屬
九三〇	八八七	九四〇	五八九	八六〇	八五〇	八九七
二七五	一六五	〇三五	一四二	三五五	二四二	一三七
二二五	七二〇	二二五	五六三	三三七	二二六	一一四
二五七	五七九	二一〇	六〇一	三七五	二六〇	二五一
七九八	〇八二	〇三〇	七〇六	五〇五	〇七〇	五七九
一六四	一三三	一〇五	四四七	三九五	五一八	五五八
六五四	二七四	八七五	九三〇	三五七	六七四	六九三
五九六	二〇一	八四三	三〇八	七六五	四三〇	二一〇
八六八	〇〇〇	一一〇	〇〇〇	二二〇	一〇〇	二一一
七四二	〇〇〇	一一四	〇〇〇	二二〇	一〇〇	一五七
三二一	一三二	三二一	三二一	三二一	三二一	三二一

此表を見たところの某教育家は曰く『全體、幼稚園出身兒と直接家庭出身兒との學校に於ける成績を比較するなんて、實に馬鹿げたことを爲るではないか、家庭の主宰者は教育者ではないではないか、而も多くの家庭は無學文盲の小人ではないか、然様な素人の教育したる子供と専門の幼兒教育者たる保母の養成せるものとを比較しやうなんて實に馬鹿げて居るでは』

ないか、そりや家庭の主婦にも時には立派な婦人がないでもなからう。併し然様な婦人は百人の家婦に何軒あるか、多くは是れ平凡憐む可き家婦ばかりである。斯様なものを對手にして統計の何のと實に大人げないことではないか」と、誠にハヤ一言もない道理で此様な判つた人にも世間は廣いもので一方に善いと言ふものがあれば理が非でも殊更に悪くして見たいと云ふ、つじの曲つた人もある。元來、幼稚園出身兒の成績を疑つたのは誰れであるかと云へば素人ではなくて實は教育者である。現在に於ても幼稚園の教育に同情を表せざるものは一部固陋の醫者か或は教育者の一部分で却つて何事も知らぬ素人は益々切に幼稚園の必要を感じつゝあるものである。幼兒を持てる教育者にして幼兒保育の道を講ぜず。却つて幼稚園を罵り幼稚園を破らんと試みつつあるは誠に慨嘆す可き状況である。斯る反幼稚園的思想を有する人に採つては右の調査表とても然したる感想を與へないかも知れぬ。或は云ふか

も知れぬ。成る程入學の當初こそ成績は善からう併し、漸次進むに連れて其成績は何うなるかわからぬ。果して最高學年に至る迄も其成績が繼續するるのでなければ感心は出來ぬ併し、是は所謂「屁理窟」と云ふものである。恰も小學校入學の際に體格検査を行ふに對して、此子の健康は信じられぬ。後來高學年に至る迄も健康で居るのでなければ眞の健康ではない。と云ふのに能く似て居る。現在の健康は何處迄も現在の健康である。併し此健康が如何様に變化す可きかは一に今後の養育如何に因るものである。然も其が如何様に變化したにしても決して現在の健康が偽りであると云ふ譯には行かぬ。又現在の健康が後來の不健康の原因であると云ふ譯には行かぬ。之と同様に因つて現在小學校に於ける成績が幼稚園出身兒の側に於て勝つて居るとしたからとて何も之を咒ふ必要はない譯である。現在善いものは善いとしなければならぬ。後來如何様に變化す可きかは一に小學校に於ける教育の如何に因るので之を善くするも悪くするも一に小學校の責任と云はなければならぬ。

幼稚園改良案 (續)

藤田東洋

前々號本誌の餘白を借りて幼稚園問題に關し皮想
 觀たる愚見を鐵面皮にも論述せり或論者曰「抑々
 幼稚園は其創立以來幾多の星霜を経たるに拘らず
 其事業に於て著しき進歩を認めず幼稚園の事は殆
 んど全部保母に一任せざる状態にして園長たる校長
 は保育事業に比較的多くの知識を有せず従つて幼
 稚園に關しては稍冷淡なる傾向なり」と然り今後
 の幼稚園は小学校同様に保母及其事業の内容に就
 き益改良を期せざるべからず幼稚園は學校と分
 離し獨立すべきものなるや否小学校と幼稚園とは
 互に聯絡關係を保つべきは當然ならんかと愚考す
 園長(校長)は幼稚園に對する研究を累ね大なる抱
 負を以て指導し現在に於ける幼稚園を改良すべき
 ものなりと信ず今又前號に引續き改良策の一二を
 論究し大方諸賢の叱正を仰がんとす

保母の資格に就きて

近來小学校教員の資格問題の聲高し是れ一に義務
 教育延長の結果、時世の進運に伴へる新知識の不
 足を認められたるにて學力補習講習等着々其歩武
 を進められつゝあり然るに幼稚園は如何社會にて
 は無用の長物視せられたるが故か將た何か？時世
 の進運に伴ひ改良するの必要なきか保母に講習す
 るの必要なきか今迄幼稚園が殆ど捨て放しの傾
 向ありしは吾人の常に憂へつゝある所なり、彼幼
 兒を誘導感化し眞の親に代はるべき最も大切なる
 保母に就きて研究せられざりしは遺憾なり吾人は
 現在に於ける保母の資格は少くとも尋常小学校本
 科正教員以上を有するものたらざるべからずと考
 ふ然るに實際は如何雇保母或無資格者を七八圓位
 にて採用せられたるが如き始末なれば保育につき
 ての知識に乏しきものにて幼稚園成績の擧るべき
 理由なし亦七八圓乃至拾圓以下の俸給を以て立派
 なる保母を得ること能はざるは當然なり殊に年齢
 十七八即二十歳以下の保母たる所謂子供上りの乳
 臭き女子自己は家庭にありて母親に補助を受けざ
 るべからず又保育に對して實驗の經歷なき保母が

子供を保育するとは果して母の愛を持ち母に成りて任務を全ふすることを得べきや否
是等は全く幼稚園制度の然らしむる點か知らざれども外國の如く純粹に子守的にするならば可ならんも今日の我國の制度にては其れ迄に行かざるなり幼稚園保母に師範卒業生の少きは誠に遺憾なり今後は保母の待遇をよくすると共に保母を採用する場合には一面資格と年齢とにつき注意を要すべきなり京都市は明年度よりは園長及保母の待遇をよくすると共に幼稚園の刷新改良を期する計畫あるは斯道の爲め喜ばしき次第なり

附言

一、幼稚園長會の開會を望む

時々幼稚園保育問題其他一般事務に關し打合を爲すべきこと

二、幼稚園保母會の開會を望む

保育者互に會合して保育上の問題、手工、唱歌、遊戯、談話等に關する改良刷新の爲め互に意見を交換し討議すること

三、幼稚園の保母の講習會開會を望む

爲め互に意見を交換し討議すること

四、幼稚園保母の相互參觀を望む

互に實地の保育状況を參觀し他の長を採り我が短を補ふ方法を爲すこと急務なり

幼稚園と家庭との連絡

現在此幼稚園と家庭とが如何にして氣脈を通せられたるか予や亦皮想の觀にして其皮肉を知らず小學校と家庭と聯絡を保ち協力以て兒童の教養に從事するが如く幼稚園と家庭殊に母親との聯絡關係を密接にし幼兒の保育を爲すは當然なり即ち家庭の狀況の一般を知り幼兒の個性を觀察し以て自然に従ひより多き個人性の發展を爲さしめ教育者の保育の意見を立て所謂斯道の爲めに兒童研究を爲さんには必ずや幼稚園と家庭との連絡を保つを得べきや明なり米國に於ては幼稚園と両親との聯絡及學校と家庭とは互に氣脈を通じ着々行はれつゝあるは即ち之れなり、両親にして幼稚園の内容を知らず保母を知らず保母たる人其家庭

を知らず其子供を知らずとは實に遺憾ならずや
雷に幼稚園のみならずや

入園當初保護者會又日々個人別に來園を促し幼兒
の一般狀況を調査し且つ保育上の希望を納れ且

又保育に關する主義方針(意見)を吐露して茲に相
互間に聯絡して保育し且つ時々保護者をして保育

の狀況を參觀せしめ實地に就きて己が最愛の子
女の保育せられつゝある様を見、之れによりて自

己の家庭境遇を考慮し其感想を述べ意見又は希望
を徴する等、斯くして家庭幼稚園との雙方等を作成

るべく一途に出でしむることを務めざるべからず
園兒の個性觀察

近來實際教育家の間に個性觀察の聲著しくなり
たり之れ教育上最も必要なることにして且つ賀

すべき次第なり吾人前紙に於て幼兒取扱方法の
改良(口)に於て幼兒の個性を觀察し取扱に注意

すべしと論じたるが今更に一步を進めて次第方法を
を論及せんとす

元來此個性觀察は二方面の必要より起りしもの
にして先づ其兒童の家庭境遇を知るは勿論訓練上

一は實驗心理上の要求なればなり
偕て現今に於ける幼稚園の個性觀察は如何にせら
れたるか今吾人の想像し見聞せる狀況を示せば大
概左の如し、然して其觀察し調査せられたる材料
は如何卓の抽斗又は本箱に籠城せるの有様にし
て之れが利用等に就き多大に腐心せられたるを知
らざるなり之れ實に當事者の反省すべき點にあら
ざるなきか

兒童名 山川太郎 生年月日 明治三十八年

三月一日 保護者 山川一郎

觀察事項摘要(第一、二、三學期)

一、活潑ニシテ勇氣アリ 唱歌ヲヨク歌フ 手
工ヲヨクス 師ノ命ヲ守ル 言語明瞭 身體

健全ナリ

一、六月十五日二ノ組ノ山田某ト争鬭セシヲ

以テ訓誡ス

幼兒の觀察の方法は種々あらん吾人は曰く入園の
最初に於て幼兒の個性觀察を爲すべし、自然に圓
満に發達を遂げしめんとするには必ずや其初めに
於て個々の幼兒に就きて精細なる個性觀察を爲す

べきことこそ必要なり此觀察の上に保母たるものは所謂先行後言の主義によりて一舉一動具さに善良なる模範を示し之に接觸し常に幼兒の個性の活動の那邊にあるかを注意し綿密なる側面觀察を爲すべし

幼稚園生活と家庭生活とは其趣を異にせるを以て幼兒其者の心身の上に影響すべきこと多大なれば保育者はよく其子供を知り姑息的の愛に流れず眞正の愛情を以て之を誘導感化し心身の活動を爲さしめ善良なる風習を作り多少規律を守らしめ時に不良の傾向ある時は社會の地位名望家の子供なりとも躊躇せずして制裁を加へ弊害を未發に防がざるべからず

之を行はんには先づ幼兒の家庭に於ける状況換言すれば家庭の躰方を知り而して生理心理的情態を知りて家庭の名望を受け以て其個性に應じて保育するは當然なり

即ち其幼兒の家庭を知ると云ふことは最大急務にして保育を爲す第一階段たるは論なし次に幼兒の生理心理的たる方面を會得し此境遇此稟賦及能

力の現れたる個々の精神活動を眞に善く了解せざるべからず然らざれば其取扱の方法が形式的に流るゝのみならず器械的弊に失する嫌ひなきにあらず若し此弊に陥らば自然を無視することとなり個人の稟賦及能力の自由なる發展が阻害せらるゝの結果を見るに至る其故に幼兒に就き是等の方面を善く知り居ることは幼兒を取扱ふ者に非常に大切なる要件なり今左に吾人が愚考せし觀察録の形式を示せば左の如し之れに記録したる時日常坐右に置き各自に適切なる訓育を施すことこそ肝要なり換言すれば其記されたる事項に就き保育上の意見を定め着々各自に着眼し之れを利用し良好なる結果を擧ぐることに注意すべきなり

幼兒觀察要録

兒童氏名 山川太郎 保護者名 山川一郎

往所番地 今出川町百番地

生年月日 明治三十八年三月一日 職業 商業

(吳服店) 宗教 一向宗

一、家庭の躰方及境遇、

(A)(イ)祖父母

祖父一人

(ロ)父母

兩者生存

(ハ)兄弟姉妹

兄十八 姉十六
妹十一 弟十七

(ニ)婢僕

丁稚一人

(B)(イ)父母の健否

(ロ)生後主として本人を養育せしもの

(ハ)若くは惡の習慣

(ニ)其住居地の町村の風儀如何交友の善

惡並に年齢

二、生理心理的狀態

(イ)過去に於ける疾病

(ロ)持病

(ハ)生後發育の狀況

(ニ)飲食物の好嫌

(ホ)問食の供給方(度數種類)

(ヘ)朝起狀況

(ト)寢言、齒切

(チ)夜中用便の度數(或寢小便)

(リ)玩弄物(並に遊びごと)

(ヌ)物語噺芝居等の好嫌

(ル)本人の著しき長所及僻性

三、保護者保育上に就きての希望

四、將來に於ける保育上の意見(方針)

五、各期に於ける経過の狀況

一〇
中流以下の家庭の幼児を保育すべし
先きに保育料減額を望むの一項に於て述べしが如く
現在幼稚園の多くは中流以上の家庭の子弟に非
らざれば入園するを得ざる有様なり故に去月京都
日出新聞に論せられたるが如く之れに伴ふ弊害は
事實上認むべき次第吾人の實驗上前々號所載の通
り駄方に苦心を爲したり
吾人は此組織を變更して今日下層社會の勞働者貧
困者所謂九尺二間の裏小屋に終日夫婦共稼ぎの子
弟は誰も引取りて守りするものなく保育するもの
も更になく併し之れが軍人遺族の子弟軍人の貧困
者ならば軍人後援會幼児保育所の設けあるを以て
之れが救済は出來得るも然らざるものは已むなく
自己の勞働場へ運れ行き日々一二錢のお駄賃(間
食)を與へて自ら仕放題に致させ悪くなると、善
なるとに關せず自然に放任し、彼れ問食物の缺乏
を來たし玩弄物に厭く時は勞働せる親にねだり込

むと云ふ有様親も止むなく業務を中止し子供の機嫌取りに腐心せる、或神經過敏の親は大眼玉を喰はせ鐵拳を興へて遂に最愛の子女を矯めさんとするを見る之れぞ却て悪影響を興ふのみにして善良なる感化を興へず中流以上の家庭に於ては幼稚園の力を借らずとも完全に育つことを得れども下層民は然らず噫實に是等の子弟は日常其生活其境遇交友により一面實業の妨害となり幼児の良萌芽をも完全に育て上ぐることはざるなり、故に下層社會の子弟を收容し保育すること眞の幼稚園を設立せし効あるにあらずや偕て保育料につきては其生活状態即貧富の程度に由りて免除又は少額を徴收し中等以上の家庭よりは保育料を多額に負擔せしむる様の方法を採ること至當ならん今後は此方針計畫を望むや切なり



都會に於ける小兒保育 上の注意

雨 峰 生

一、愛郷の念を養へ
都會に住居し都會に生活して居て、我が子を保育して行く上に痛切に感ずるのは、自己の所有地、自己の所有家屋なき爲に、愛郷の念愛家の心を養ふに不便なる事である。田舎に於ては殆ど總べての人が自己の土地を所有し、自己の家屋を持つて居つて、自己の家屋を愛し、自己の生れた郷里を愛し、進んでは愛郷愛國の念を養ふのに、非常に都合が宜しい。之に反して都會に於ては大部分の人は借地人である、借家人である、善い家屋を追うて轉移して行く人である。昔地理書に於て中央亞細亞あたりの土人は、皆水草を逐うて移轉するといふことを學んで、どういふことかよく合點が行かなかつたが、東京などに於て、善い水のある家や、水道のある家や、庭の廣さうな所やを選ん

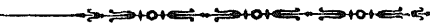
で引越しする有様は、取りも直さず水草を逐うて移轉するやうなものだと合點が行つた。水草を逐うて移轉するやうな生活は、獨身の折や、放浪生活をする折や、まだ子供の折には非常に便利で都合がよいこともあるけれども、既に子供を持つた以上、大に考へねばならぬことと思ふ、人情一つ所に久しく住めば、そこにいろいろと複雑な關係が出来、いろいろと雑多の聯想が出来、愛郷の念がこゝに萌芽するのだけけれども、孔席暖なるに暇あらず、昨日は東今日は西で、善い家があれば引越す、住みあきたから引越す、近所がさわがしいから引越す、何のかんのといろいろの理由の下に引越をしては、愛郷の念の起らう筈がない。愛郷の念やがてこれ愛國の念であつて見れば、郷里を愛する念慮の起らぬやうな都會的生活は、兒童の保育上實に寒心すべき點ではなからうか。無論田舎の人のやうに、其の日の日の生活に逐はれ、父祖傳來の田畑を失ひ、到底浮む瀬がないのに、奮發して他郷に出稼しやうとする念慮がちつとも起らぬのも善い事ではないが、しかし都會の

人のやうに、善い所があれば何處でも移轉しやうさながら徹れたる靴を捨つるが如く、今までの住處を捨て去るが如きも譽められた話ではない。若しも東京のやうに教育を受けた人が澤山住んで居る都會に於て、其の住民が皆我が郷里我が家屋といふやうなる觀念を以て、其の區内其の町の公共の事どもに一臂の力を添へたならば、東京の各部分は何かに立派なる發展を遂げるであらうか、實にはかり知るべからざるものがあらう。此の點は今論じやうと思ふ主題ではないので、此の點で切りあげておくが、實に惜しい事である。一般の家に於て、愛郷の念に乏しいから、知らず識らずの間に於て子供に影響を及ぼして来る。子供の頭には愛郷の念といふものが殆どない我が住める土地のために力を盡して見やうとか、我が住める町内をして模範的の町内とならしめやうとか、左様な高尚の考が子供の頭に殆ど宿りやうがない。都會に於て生活し都會に於て我が子を教養して行く所の人は、此の點に就て大に考慮をめぐらさなければならぬと思ふ。

二、愛家の念を養へ

雇人根性といふものは、世間から非難せられる主人の見てゐる處では働く振をする、陰では盛に油を賣つてゐる、主人の前では子供を大事にする陰では随分子供をつねりもする打ちもする、非難されるのは當然だ。しかし人間は境遇に支配せられるものだ、少い給料で多い時間働かねばならぬ雇人、休息し安眠する時間は少くて、動もすれば酷遇し虚使される雇人であつて見れば、樂をし骨惜みをするも幾分恕すべき點がないでもない。ましてや教育の乏しい思想の低い人たるに於てをやだ。それさへ制度の弊を見とめて、近來は利益の幾分かを雇人に與へるやうな仕組になつて來た、或は教育を施し知識を與へるやうにとめて來た、雇人根性が非難せらるる價值があれば、借家人根性といふ者も亦等しく非難される價值はあるだらう。住まれるだけは住みあらし、善い家を見つけては又引越をする、それも現今のやうな制度では已むを得ぬことでもあらうが、何とかそこに法がないものであらうか。長い年月住み込んだ人

には、家賃の幾分を割り戻すと加、丁寧に住まつたものには益設備を完全にしてやるとか、住まふ方にも貸す方にも共に利益があり共に快い方法が幾らもあるであらうと思ふ。しかし此處では之を論ずるのが本意でないから借家人根性について論じて見やう。住まれるだけは住んで、善い所を見つけては引越すると、成程算盤とつては目前一寸利益があるやうにあらうけれども、既に自己の品性の上に幾分の汚點を印したといふやうなもの、況んや其の事が冥々の間に自分の大切な子供、黄金にも白銀にもすべての寶にもかへがたいといふ自分の子供に悪影響を與ふるに至つては、大に考へねばならぬではないか。さてどういふ風な悪影があるかといふに、我が住まつて居る建築物を愛護する念慮に乏しいのみならず、公共の建物や何かに對して之を大切にするといふ考が缺如する。恒の産なきものは恒の志なしとやら、それは人情已むを得ぬことであらうが、苟も教育を受けたる人たる以上は、よしや常の産なしとて、恒の心があるやうにせねばならぬ。それと同じやうに苟



も教育を受けて、社會に相當な地位を占めて居る以上は、自分の家は持たなくとも、借家人根性は持ちたくないものである。況んや此の借家人根性の我が子に及す悪影響の大なるものがあるに於ては猶更である。都會に住める人よ、自己の家なくして、已むなく他人の家を借る人よ、よしや一年二年の短日月の寓居にもせよ、苟も自己の住家に宛てたる以上は、これ自己の城廓である、全く自己所有の物と少しも異ならざる念慮を以て、之を丁寧に大切に取扱ひ、以て我が子をして、都會生活、借家生活より來る所の悪影響を受くることを免れて、家を愛し建物を愛し公共のものを愛護する立派なる品性を得しめられんことを希望するのである、なほ出來得るならば最初に善い所を選択し一旦居を下した以上は、成るべく居を轉ずることなどなきやうにしたいものである。

三、住居の選擇

居は氣を移すといひ、環象人を造るといふ皆住居周圍が子供養育の上に大なる關係を有し、品性陶冶の上に大勢力あるを道破したのである。それ

故に我が子の教育に苦心をし、全力を傾注して居たところの孟母は、我が子の教養の見地からして三たび居を移したといふことだ。此の話は有名な話で今更言ふにも及ばぬが、苟も我が子の養育に苦心をし注意をして居る所のものは、孟母ならずとも、三たび居を移す位のことば誰しもするであらうと思ふ。然らば如何なる住所が最も小兒教育に適當であるかといふに、其の重なる條件は空氣の清潔なる所、日當りのよい所、車馬の雜踏しない所、運動すべき廣場のある所、適當なる遊び友達の得られる所がよいと思ふ。此の條件を備へて居る所は住居として、子供教育の場所として非常に宜しいといはねばならぬが、扱それだけの條件を備へた所は先づ都會には少いやうに思はれる。第一の條件たる空氣の清潔なる所は、都會にはないと思はねばならぬ。紅塵萬丈の都會に於て、製造工業の繁盛なる都會に於て、空氣の清潔なる所を求むるのは無理である。此の條件に當てはまるのは市街の隣接地たる接續市であらう。東京ではは大久保なり、田端なり日暮里なり巢鴨なりで

あらう。然し是等の接續市に於ても工場の大なる地たとへば王子の如き、本所深川邊の如き、必ずしも空氣清潔とはいひ難い、否却て都會の或る地域よりは却つて空氣の汚れて居るべきは彼のむらむらと立ちのぼる煤烟、時には天日を蔽ひ、曇れる空におほひかゝる黒烟によりてトすることが出来る。よしや郊外の空氣が又非常に清潔であつたとしても、人によりては其處に住まふことの出來ぬ事情がある。それは自己の職業によりてはとうしても市中に住むを要するものがあらう、勤務の都合によりては遠方より通ふことを不可能とするものがあらう。よしや交通機關は如何に便利なりとも、之を利用することの出來ぬものもあらう(またある)

如何なる兒童が取扱に

骨が折れるか

峯間 信吉

普通教育も次第に進歩して來て、中々兒童の取扱

も上手になつたのであるが、之れを教化するには實に骨が折れる。其骨の折れる中でも、どんな種類の兒童が最も取扱ひに困難を感じ、教化し難いかと云ふに

悪い家庭から來る兒童

悪い家庭から來る兒童が最も困難である。元來兒童の學校に居る時間は、頗る短時間で、一日中の大部分は家庭にあるものであるから、若し其の家庭が悪かつたら、それが骨身に沁み込んで、到底學校の訓育位では感化し難い。通常の家庭に於いては、學校の先生に言ひ附けるとか、罰して貰ふとか云つて、威しなからも教へ込むことが出來、學校でも良家庭の兒童であつたなら、家庭と相待つて好果を得ることも出來るが、家庭の悪いのばかりは如何する事も出來ない。兒童はそんなに悪くなくとも、家庭が悪しければ、折角學校で作り上げやうとするのを毀して仕舞ふ。實際斯かる例は少くないので、例へば暑中休暇に學校で兒童に或る課題を授けて、少々なりとも休暇中のつなぎ

にしやうと思ふと、或る家では「休みの中にそんなうるさい事をさせる學校には、行かなくとも宜い」などと云ふのがある。

こんな風で兒童の立派にして居るのは學校内だけで、一旦、學校から退ければ忽ち、教師や生徒間の制裁を離れ、かくして、其の生活中の多分の時間を悪い家庭で過ごした兒童は、少々呑込みの遅い兒童や、腕白なものよりは、一層の手數がかゝるものである。學校の教育は勿論必要ではあるが、家庭に於ける習慣や、其の他の影響と云ふものは、兒童の骨髓に入つて基礎となるものであるから、父兄たるものは最も力を此に盡さなければならぬ。

父兄不心得からの迷惑は種々ある

然るに家庭の位置は高くありながら、其の父兄の教育的精神の缺けてる爲めに、學校にまで種々な迷惑をかけるものもある。ある學校で一人の兒童が

成績が悪いから、其の父兄に對して注意をしたら、其の父兄は直ぐに區に向つて、「自分の子弟は學問さしても見込みがないさうだから、早速退學させると申し出た。又ある所では一人の生徒が扁桃腺を痛めて、父兄に「これは學校から傳染したのだ」と報告した。所が其の家は市内の有力家である所から、直ちに市に向つて抗議を申込み市からはそれぞれ役員を派して調査せしめた所、さる形蹟だもなかつた。又之れもある有力家の兒童が教室の寒いために、風邪に罹つたら、それが爲め、其の學級の教室の變更を爲さねばならぬやうになつた。こんな例は嘘の様であるが、斯かる事が真正にあるやうでは、教化も中々至難の事であると思はれる。

然して矯正法は如何

此等のうち、あまり宜しくない家庭の兒童は、いかにして矯正したら宜からうかと云ふに、近頃市内にも澤山建立されたる、特殊小學校に於いて、特別な教育の下に、今一層家庭と學校とを近接さ

して、教師も亦其の心掛けで始終家庭を訪問し、
學課以外に於いて、其の児童の本心からして改め、
尙家庭をして其の悪しき所を矯正せしむるやうに
しなければならぬ。

次に困るはズルイ兒ども

以上は兒童を家庭の從屬者と見て、説明したので
あるが兒童其のもの、上から見て、どんな兒童が
一番困るかと云ふに、學問の出來ない、所謂低能
兒と云ふやうなものよりは、ズルイ意地の悪いも
のが一番困る。困るばかりではなく、之れが他の
兒童にも悪感化、悪影響を與ふるので、一層の困
難を感ずるのである。
低能兒と云つても白痴にあらざる限りは根氣よ
く、手敷をかけて教へ込めば出來ない事はないの
である。慶應義塾の幼稚舎などでは、此等の生徒
の爲めに、別に一學級を設けて二三月教育して
は、學課が普通の程度に進んだ時は、普通の級に
歸るやうにしてある。此れは經費の上にて普通の
の學校では中々出來ないのであるが、唯經費の點

だけであつて、悪風に染み込んだ兒童のやうに、
教化し難いと云ふやうな事はない。

不正なる職業を取る家の兒童

貧富や職業の別によつて取扱に難易を感ずると云
ふやうな事は、まあ無いが、然し概して東京と地
方では、質料と、いくらかスレて居ると云ふ所で、
地方の方が教化しよいのである。然し貧しい家庭
や、あまり高尚でない職業をして居る家庭では、
それだけ父兄に教育のないのがあり、又従つて譯
の解らぬ人が多いのであるから、それらの子弟も
幾分困難だと云ふ點はある。然し最も困難に感ず
るのは、不正の商賣をして居る家の兒童である。
不正の商賣をして居る家の兒童は、不正とか悪事
とか、或は反對に正直とか、正義とか云ふやうな
事を話すと、心にグツと感じて、頭を垂れ、顔を
赤くなどする。他の生徒は又眼を見合ひ、袖を引
き合つて其の兒童に注意すると云ふやうな風で、

甚だしく其の兒童に刺戟を與へる、之れが爲め一人でもこんな兒童があると、教師の骨の折れる事は一通りでない、思ひ切つて物を云ふ事も出来ないものである。然して不正の商賣をして居る家の兒童の中にも二種類ある。一は其の商賣の悪い事を知つて居つて、心から恥辱に思つて居ると、他はもう悪風をなんとも思はないで、濟度し難いものとなつて居るとである。前者は教へやうや、他生徒の扱様によつて、十分に教化する事が出来るものである。

最も困るは病氣の學童

まあ大體に於いて取扱に困る兒童と云ふのは、以上の如き兒童であるが、もう一つ最も大切な事がある。それは體格の悪い、病身の兒童である。此れは現今教育家の最も注意すべき所で、智育と云つても、徳育と云つても、皆之れが根本である。いかに教化しようと思つても、病氣の兒童には教ふる事が出来ない。殊に東京の兒童は體格が悪く、全國兒童の平均以下にある。胸圍や肺量等も少な

い。唯身長のみは平均以上にあるが、此れは日蔭の草のやうなもので、ヒヨロ／＼と長くなつたばかり、何も役には立たぬ。此れは東京には運動場や、遊戯場と云ふやうな處がなく、兒童は街頭に遊んでも車馬、自轉車、電車、自動車に追ひまわられて、悠悠自儘に遊ぶことが出来ない、之れが因を爲したのである。東京は由來地方人の集りである、地方の豪健なる氣象を有して居つた所の者が、志を抱いて上京し、業成つて家を立て、子供は父の氣風を受けて其の家を維持して行くが三代目になつては、其の氣、其の志が無くなつて遂に都落ちと云ふやうな事になる。それで東京は常に田舎者の新陳代謝する所である。此等の事は畢竟體力の衰頽と云ふ事に基いて居ると思ふ。又日本橋、京橋邊の老舗などでも多くは子が無い。子があつても弱々しい女の子である。それでは又子が無いので養子をするに云ふやうに、總て此調子で生殖力などと云ふ方面にも、此體力と云ふことが大に關係して来る。

體格不良は困り抜く

之れを要するに、總てが今少し體育と云ふ事に重きを置かなければ、二十年、三十年の後は、大に後悔せなければならぬ事が起るだらうと思ふ。富豪が施療病院を建てるのも宜いが、もつと根本的に考へて、此等兒童の爲めに病氣に罹らないやう、運動遊戯場を設立するのが目下の急務であると思ふ。

低能兒や其の他のものは教育がし難いのであるが、病氣のものや體格不良のものには、教育が出来るないのである。之れを考へたなら、最も力を盡さねばならぬ事は此の事であると信ずる。

終りに現今の生徒は昔のやうに粗暴でなくなつた。なぐる蹴ると云ふやうな喧嘩などは、殆んど聞かなくなつた。之れは生徒が温和しくなつたのか、或はコスクなつたのか解らぬ。自分は或は後者ではないかと思ふ。どちらにも悪い所はあるが、コスイと云ふことは、甚はだ寒心すべきことではあるまいか、此等の具合をよく吞込んで、適當に

取扱はなければならぬ。兒童を教化するのも亦至難な事業であると云はねばならぬ。

母としての實驗談

金森夫人談

夫人は、二十二歳をかしらに三歳まで九人の子女を有され、大學を始め、高等學校、師範學校、中學校、高等女學校、小學校、幼稚園に至るまで、いづれも子女の通學しつゝあり、斯る材料を目前にひかへて家庭教育に心をこめられつゝある其經驗談なれば其心して讀まれんことを望む。(記者)

○生長したる子女には物事を命令せずして相談すべし 男子ならば中學校時代女子ならば高等女學校時代、すなはち中等教育時代の家庭教育も極めて大切なものであります。此時代には子女自身の思慮にて大分に物事が分る様になつた爲に、學問の事は獎勵せずとも自ら油斷せぬ様になり、小學時代迄に過つて悪い習慣のつきし事なども其大部分は取返し得るものであります。放任して氣をつけよといふ育兒上の格言はいよく適切となり、

放任しながら子細に注意して、完全無缺な人とならしめんことに努むべきであります。身體の健康も此時代に大に進むべく、人格も亦高くなり得るのであります。此時代に於て特に親の心得べきこととなり、とて私の平素尊敬せる西洋婦人がわざわざ注告して下さいましたことがございます、其れは斯ういふことです、子女が已に十七八歳にもなると自身に見識を備へて居るものであるから、小さい時と同様に何事でも命令するのは宜しくなく、十七八の子女に命令すると、親の命令だから背きはしない、服従はするけれども心に快く思はない、故に此時代が来ると方針を一變して、子女を友達と心得て何事も相談相手として相談をかけるが宜しい、例へば「自分は斯う思ふが前は何か考へるか」といふ様に相談して事をさせると大層快くするのである。此事を教はりまして以來私は試めて居ますが、誠に好結果であります。

○子供等より學び置くことあり 母親は常に子供が學校にて學び居るとに注意して、此頃は如何なることを學び居るか、或は學校用品は如何なる物を用ゐる居るかといふ様なと迄でも、母たる者は心にかけて子供等より教はり置き、學校の事に疎くならざる様に心がくべし、例へば、或時私は鉛筆を買ひしに、子供は其鉛筆を何にするかと問ふ、是はお前の友達に進せん積りなりと答へしに、子供は笑ひて、今日は斯様な鉛筆を學校にて使用する者無しと云ひしとありき。かく學校の事に疎くなりては子供等も張合を失ふ様になるものであります、母親たるものは子供等の學ぶ所を熱心に注意を拂つて居る者となつておらねば、子供の爲に宜しくないのであります。

○親たる者は子供を鄭重に待遇ふべし 世間には子供を粗略にあしらふ惡習があります何子供ぢやからといふ心で子供の言ふことを鼻先であしらひ、或は「邪魔ぢや〜、其方へ往つて居れ」など、玩具かなどの様に扱ふのですが、是は大なる心得違であります。一方には斯様に粗略にあしらひながら一方には立派な人間に育つ様にと願ふのは、撞著した考へではありますまいか。粗略にあしら

ふ爲に子供に自重心といふものなく陋劣な行ひをも爲す様な悪癖を生ずるのであります。小學時代の悪習慣は前に述べた様に中學時代で大部分は直ることもあるが、根強く印したものは何時までも残り、大人となつては其強き意志の力で大抵は矯正して居るけれども、何處かに時々子供の時から悪習慣が顯はれるものであります。

○子供は云ふ通にはならぬが爲る通りにはなるいくら厳しく云ひつけても懇ろに諭しても、十が十、口で云ふ通りに子供が云ふとを聞くものではありませんが、或時期に於ては云ふとに何でも子供が反對するは誰も經驗のあるとでございませう、子供といふものは斯様に云ふとを聞かぬものであります。爲るとは、其通りに眞似んとするものであります。試みに子供がまゝ事をするを御覽なさい、其態度から、言葉から、其母親の眞似をするを誠に上手なものです。平素斯くまでに母親の容子に深く注意して其爲る所を見て居るのであります。故に親たる者は二六時中其言行に深く注意して居らねばなりません、大人は人に對して表だ

けを見せ其裏は匿して置きますけれども、子供は家庭の裏も表も知つて居つて、其裏表を其まゝ人に見せてしまふものであります。されば親が行ひを慎まない時は、子供の爲にならぬのみならず、子供を介して人の笑を招くことになりす。

第一期の家庭教育

鹽野 奇 零

教育を大別して見れば三大別となる、第一は家庭、第二は學校、第三は社會といふやうに思はれます。而して第一期は専ら精神を確定せしむるもの、第二期は智能を啓發せしむるもの、第三期はその精神其の智能を實行する、言はば其の試験場である、故に世界は一大教場と見て宜しい、今は其の第一期なる家庭の教育所謂精神を教ゆる最も大切な學期の事につきその大要を述べん、之を又大別すれば三大別となりす、第一は胎育、第二は就學前の家庭、第三は就學中の家庭とに分けて話さなければならぬ。そして世間の父母たるも

の、志望を質さば、體質の健康なる、精神の確乎たる、智能に富める、實に後來我が家我が業を起し、從つて祖先の遺風をも顯彰する、といふが如き子女を得んと欲するは、誰も共に冀ふ所である、故に西洋諸國にては、生理學上の發達の結果として、その閨中には、英雄とか、豪傑とか、學者とかいふやうなえらい人の多くの肖像を四壁に掛け連ね、或は四季折々の花卉をば瓶中にさして、その精神を爽快ならしめて、以て夫等の人にあやかりたる、小兒を得んことを望み、己に懷妊の後には、専ら母の動作に注意し、甚だしく驚くとか、甚だしく怒るとか、又は歎き憂ふるが如きは勉めて之を避け、悪しきを見ず、不祥を聞かぬ様にすると云ひますが、之等は實に、生理學上より一理のある、遺傳とか感染とかに關はる事故實に必要なことである、之を第一胎育の期と言ひます。然して心理學上の説を聞くに、孩兒の教育は滿二歳前後が殊に注意すべきの期で、神經中樞の發達が日一日と加はるの時であるからして、すべての見聞せしものが精神の根源となり、また動作の適

否は、即ち身體の強弱の分る、所である、之等の時期は寧ろ精神より、先づ體育として、あまり(たつた)とか(あんよ)とかは、強ひず自然に任せられた方がよろしく、譬へば言語の上にては、(ちよちく)、(あわく)、(おつむてん)、等身體適應の事にして、専ら體育の方面に注意するがよい、以上は衛生上に於ても實にやましくいふ所で、實に活潑なる精神は、健康なる身體に宿ること、まことに大切な時期であります。進んで三四歳に及んでは、少しく人の談話を聞き、おかしいとか、こわいとかいふ感覺もあり、且つこの期は好んで人の話を聞き求むるといふの念慮もあれば、この時期の事は心裡に印し、永く記憶して居るもの故、之より始めて、徐々に精神の修養を勉め、よき習慣を啓誘してよろしきのみならず、折々は(舌切り雀)(桃太郎)(花咲爺)などの話より、進んでなるべく高尚に、面白いと云ふ様にして倦ましめず、却つて彼より追求して聞きたいと云ふやうにしつけなければならぬ。夫より五六歳に及んでは喜怒哀樂の情、善惡邪正

の別も分つて来るけれども一利あれば一害の之に
 伴ふもので、この期は俗に云ふ悪まれ盛りとて、
 多くは悪しき方に智の走りたがる、最も養育し
 だき時ですが、夫等を急に戒しめんがため、頭を
 叩けば却て不完全なる脳を書し、白痴ともなるべ
 く、無理にこわがらせれば恐怖心に流れ、しかり
 つけてばかり居れば、卑屈に陥り、あまへさして
 置けば、不品行、不攝生の嫌があり、實にこの時
 期は最も大切にして、最も世話のやける時です。
 夫等に適宜の所置を施すは勿論、教ふる事は、先
 づ、いろは、五十音、數字などに止め、非常に腦
 髓を痛めさせぬ程にし、談話する事に就ても、忠
 臣は二君に仕へず、貞女は兩夫に見えず、君耻か
 しむれば臣死すといふ事など論理的格言でなく、
 やはり通俗的に楠正成といふ人はかういふ人で
 あつた、大石由良之助は、かういふ事をしたと、
 歴史談をする方が、よく兒童の心中に歸納して、
 益々精神を確乎たらしむるの要素ともなるもので
 あれば、常に父兄は忠臣とか義士とかの行ひを話
 し、母姉は孝子とか、貞順とかの事を、頭を撫で

背摩して平温に語るがよい。
 或時はまた外出に伴ひ、神社佛閣に詣で、公園
 等に遊ぶことあらば、夫等を好材料として、この
 八幡様と云ふはかういふお方を祭り、天神様とは
 かういふ人であつた、この招魂社はかくくで、
 此の紀念碑はこうじやと、其物其事に當つて、面
 白く聞かす内に、不識不知の間に於て、善に就
 き悪を忌むの精神を確立し、よき習慣を涵養する
 のみならず、すでに就學に先き立つて其の地方の
 事物を知りつくし、自然教育の初歩を修むるもの
 である之等を第二期就學前の家庭といふべきもの
 です。
 第三期即ち就學中の家庭は、最も其越き方法を異
 にする點が生じて来る、夫は如何なる點かといふ
 に、すでに就學中に於ては、専ら學校に重きを置か
 しめ、教師を尊信せしむるといふ觀念を起さねば
 ならぬ、と云ふ事は申す迄もなく、已に教育の任
 を託したる以上は、家庭に於ては先づ修身談、讀
 方、書方等學校にて教授せられたる後、退校を待
 ちて復讀せしめ、其見解、其要素、其訓誡等、苟

も齟齬せざる様大に注意せねばならぬことである。要するに、父兄たるものは、其の一家の中の教師であつて、その父兄の起居進退飲食談話等に至るまで、始終日々の行ひ方が、取りも直さず、その子弟の教育になるので、良い子供を生ひ立たせやうと思へば、一家中のものが良い行ひをして見せるより急なる事はありませぬ。家庭の教育と云ふのは即ち之でありまして、日常、仁義忠孝の行ある家には、自然に仁義忠孝の人が出来ると云ふ譯であるから古人も忠臣は孝子の門より出づると申しました、故に兎にも角にもよき人物を出さんとするには、其の父兄たる者の注意が極めて肝要であります。

人間の匂ひ

本郷生

以前米國に於ては逃走したる奴隷を追捕するに、犬を使用した事があると云ふ、之れ犬は能く其臭

二四
氣に依りて人を搜索する事をするからである。數時間も前に主人の通過したる路を、其犬が地に鼻を擦らん計りにして疾走することは、吾々の屢見たるところである。

そこで人間と云ふものは、各自が一種特有の匂ひを有して居つて、其人の觸るものには一々其匂ひを止むると云ふことは疑のない事實と考へられる。故に若し人間が犬の如き鋭敏なる嗅覺をもつたとすれば、一々の人につきて皆夫れ夫れ異なる匂ひを嗅ぎ分ける事が出来ることは疑ひはない。幸か不幸か、通例の人はかくまでに鋭き嗅覺をもたぬ、從て自分の匂ひがどんなのであるか、自分の家族、自分の友人が如何なる匂ひのする人であるかを氣付かずに居る。但し特別な場合として、此嗅覺の非常に發達したる人もあり、又此匂ひを特別に強くもつ人もある。多くの盲人は甚だ嗅覺の鋭いものである事は人能く知るところである。羅馬の詩人マーシャルは、絶世の美人ターイズの香ばしき匂ひの人なりしとを述べて居る。又歴史家プルタークは、アレキサンダー大王が、

特別に強い一種の匂ひをもてる人であつて、其衣服が永く其匂ひを失はざりしことを述べて居る。近頃の人では、瑞西の人相學者ラヴァーテルが、特に鋭き嗅覺を有して居つて、多くの知人を其匂ひに依つて知り分ける事が出来ると公言した。或る研究家の説によれば、人間の匂ひは其皮膚より分泌する汗、其他のものに原因して居る。其分泌は種々の原因によりて盛衰が起る、例へば運動をしたるときは、発汗劑でも飲用したる時の如き、若くは何か非常に恐れ入つた事でもある時の如き、此等の分泌は激増する。而して其分泌物の質と量とは、亦體質にも關係がある。多くの例によりて考へるときは、毛髪の色は其人の匂ひと關係があり、赤い毛髪の人、男でも女でも匂ひが強ひと云ふ。人間の匂ひについて細心研究したるドクトル、ガロヘンの説によれば、美しき髪をもてる婦人は、多く龍涎香又は麝香の匂ひをもち、褐色の髪をもつ婦人は多少のヴァイオレットの匂ひを放つと云ふ事である。多くのヒステリー症にかかれる人は、左程鋭き嗅覺をもたぬ人にも容易に

みとめ得べき程度のヴァイオレットの匂ひがある。肺病の人は、其病の初期に於ても、既に一種特別の匂ひをもつ。其他種々の病氣が、それ／＼特種の匂ひを其病人に與へる。かくの如く各個人が特有の匂ひをもつ其外、各種が又特有の人的匂ひをもてる様である。或る場合に於ては、此事は一般に認められて、疑の容るべき餘地がない程の事實となつて居る。例へば白人種には、黒人が山羊の匂ひをもち、蒙古人種が一種名状すべからざる不快の匂ひをもつことが感得せられ、又黒人及び支那人の方よりは、歐洲人が物の腐つたる如き、又死骸の如き匂ひがあると云ふし、白人の婦人の匂ひは、特に日本人に對して不快の感覺を與へると云ふ事である。(サイエンチファイツクアメリカンより抄譯)

如何にして美人とな

るか 文學士 桑田芳藏

左に掲載する所のものは去月三日通俗心理學講演會に同氏の

述べられたる談話の主要なり。

○表情の意味を簡明に言ひ盡すことは、頗る難しいことと思ふ、然し表情に就て話そうとするには、是非とも其大體の意味でも定めて置かねばならぬから、自分は表情を次のやうに云ひたい、則ち表情とは身體の形の上と現れた變化を意味するのである。

○不完全ではあるが、表情の意味を、右の通り定めて、さて表情には、凡そ三種の類別をすることが出来ると思ふ(一)血液及呼吸の表情(二)顔面の表情(三)身體の表情、即ち是れである。

○感情の狀態が、靜かで穩である時は血液の運動が穩かで呼吸の具合も落付いて居るが、一度恐怖とか心配とかの爲めに、心海に波瀾を生じ感情の狀態變則となると、血液は急流の奔騰するが如く、呼吸は早鐘をつくやうになつて、其結果は血管の膨脹、鼓動の不安てふ表情を呈し來るのである、平生の狀態につきては、自分の身體に血液の循環して居ることや、呼吸をして居ることを知らないで暮して行くが、感情のとなはないと、初めて

自分の體內に血が循環し、呼吸の鼓動をして居るのに感付くのは、毎々吾等の出會す經驗である。

○顔面の表情は、耳目鼻口の上に表示するもので、其殊に著しいものを眼とする、眼の表情としては

(一)に眼球の運動具合(二)に眼の形の大小てふ二點より着眼することが出来る、多方面を注意する

とか驚愕を示すときは眼球の運動は速であるし、注意力の缺けて居る時若くは物憂ひ感情を現はす場合は眼球の運動止んで停滞沈靜となる、又第二

の場合で眼の張りの大なるは驚愕とか注意の精神状態を示し、其小さいのは多く不快の感情を表現

するものである、目の次は口の表情であるが、口の表情は、大體苦いといふ表情、甘いといふ表情、

酸いといふ表情、及くいしむる表情の四種を擧げ得ると思ふ。一は不快の感情を示し、二は口の角

が少し釣る氣味に見え、快感と愛情とを示し、三は泣顔、四は決心を示すのである、耳と口との二

者は、人に於て餘り表情を有しない方であつて、之は此の二者の運動が、人間に甚だ缺けて居る爲

めだと信する、然し動物には耳の運動自由なるが

ため、従つて表情も存在する、犬が耳を垂れて柔
和の情を表し、耳をそばだて、警戒恐怖の情を示
すなど適例である。

○表情の種類第三は身體の表情で、之は又普通
に身振とも名づけて居る、例を以て述べると、犬
が憤怒の情を表現するに當つては、尾も耳も振り
立つるが、喜の情を示すときは、耳を垂れ、尾を
振り身體を様々に屈曲する態をとる、又人が驚愕
のとき、双手を打開き、嫌厭を示すとき、當面の
物體を掻き除く様を演じ、其外苦悶に手を組むな
ど皆な此種の表情に屬するものである。而して此
身振の表情は其起因りに従つて指示と模倣との二
種に分類することが出来る、前者は純心理的で其
表現は心理的に已むを得ざる性質のものであるが
後者は心理的歴史的で、故意に之を爲すものであ
る。例へば接吻の如き、何か歴史上の關係から起
つて居るものであつて、生後間も無き嬰兒には、
殆んど接吻てふ現象が認められないに徴しても之
が純心理的にあらずして、歴史的因縁に繋れて發
生することが判る。野蠻人の中には、口で接吻を

せず、鼻で接吻をするものがある。鼻を只接觸
たのみで挨拶の意味を表はす者も有れば又鼻を摩
擦するのを好意の表徴と心得て居るものもある。西
藏の如きは舌を出すのを挨拶の表徴と考へて居
る。日本人が低頭を禮とし、西洋人が握手を禮と
するなども、皆何か歴史的關係が伏在するものと
云はねばならぬ。

○表情の種類は以上に擧げて終つたから一寸こゝ
で表情と人相とを比較して見やう。表情は常に變
化するもので、動的なるを本質とするが、人相は
靜的である。かく云はれ、二者は靜動全く相反す
るやうに思へるが、實際は互に密接なる關係を有
して居る。世に所謂人相觀なるものは、鼻の形と
か眼の形とかを多く列擧し之に一々註を施し、若
し人來つて人相の判断を乞ふときは、前以て列擧
せる何れに該當るかを見て、而して後註の文句を
棒暗記に告げるのである。されば科學の眼を以て
見ると、何等の基礎も根據もない流言妄語と云は
ねばならぬ。人相の中で科學的部分と認むべきは、
表情が固定して人相になつたもの丈である。表

情は幾度か之を繰返すことに由つて、終に所謂地
と變ずるもので、かゝる起原に基づく人相は、人
物判断の土基となること出来る。伊太利の犯罪
學者ロンフロンは、犯罪者は人相及骨相上、
既に業にかゝる運命に定められたものであると説
いた、これは今日の學理から立論すると、稍々否
難の箇所がないでもないが、然し奇型若くは變種
徴候は、大體に精神の不健全を暴露する者と云つ
て差支ない。

○表情は年齢、男女、種族及教育の四點に由つて
表現に差異がある(一)年齢上で云へば小兒の表情
は粗つぱいが強烈である。大人になると、其表情
餘程緩和される(二)男女では女が容易に表情を示
すに反し、男は之を露出することを慎み制する傾
がある(三)種族により表情亦自ら差異がある例
令英國人は萬事色に表はさぬ方である、獨逸人は
表情露出に重苦しい所が見え、佛人は輕快、伊太
利人は巧妙と評される。然らば日本人は如何かと
云ふに日本人自身には一寸客觀的に見難いが、概
して表情を表さない方で、或西洋人の如きは、日

本人の表情を評して、忍耐に満ちた趣があると云
つた、日本人が表情に乏しきは武士教育の影響か
と思ふ、(四)教育も亦表情に變化を與ふる者であ
る、野蠻人に教育を施すと必ず其表情に變化を生
ずるのは明である。

○更に話頭を一轉して、藝術に於ける表情のこと
を話して見やう、こゝに藝術と云ふのは、芝居と
か能狂言とか、舞などを總稱したのである、此藝
術の中には表情に對し、大體二通の見地があるや
うに見える、一は即出來るだけ實際の表情に近附
けうやとするもので、或は之を寫實派の名を以て
呼ぶことも出來やう芝居は此の方である、二は即
表情を或程度に止めやうとするもので、能狂言
舞、踊は之に屬する、例へば能狂言に就て見るに、
能狂言は總て表情を或程度に止めやうと勉める、
芝居ならば泣く時に色々の所作もするが、能狂言
では片手を面に當てるのみで其意味を表す、又能
狂言には總じて悲哀の色が籠つて居るやうであ
る、これは抑々能狂言發生の時代と關聯して考察
すべきもので能狂言は足利氏てふ武家隆盛の時代

に淵源するものであるから、其趣味が自ら武士の嗜好に合致せざるを得なかつたのである、又一方に能狂言は佛教の調子と配合したから、こゝに一味の悲哀が交らざるを得なくなつたものと見える。

○最後に大問題が取殘されて居る、それは表情と感情そのものとの關係に就てである、心理學の泰斗ヴァントの説に由ると感情がまづ存在して然る後表情が露出すると説くのであるが、ゼームス、ラングは之に反對して表情があつて然る後感情生ずるのであると考へて居る、後者の説の根據は約めて二點にすることが出来る(一)例へば病氣で呼吸が重くなる苦悶の情湧出し來るの類は、吾人日常の經驗であつて精神病者に最も多いが、これが此説の起る一因である(二)は催眠術を施して其被験者の態を泣くときの様子にすると、やがて其人は涙を流して泣き出す、これも亦此説の理由となつて居る、以上の二説は、何れを可とすべきか未だ充分の斷定を下すまでに立ち至らないが最近最も穩健と信せられて居るものは兩者を折衷したも

ので、即ち感情が表情を誘起し表情は又感情を強くすると説くのである、説の是非は暫く措いてゼームス、ラング説は精神修養に偉大な教訓を與へるものと思ふ、言を換へて云へば感情陶冶に効力があると思ふ、腹が立つたら煙草一ふくてふ俚諺は、這般の眞理を語るもので、感情が起つたら、それに反對な表情をすると幾分か感情を柔げ得るのである、憤怒の情燃え立つとき、無理にも笑つて見ると、やがて心は自然に溶けてくるのである。

○以上述べた諸點を研究して表情に注意すると、必ず人間の容姿を作り其美を發揮すると思ふ。

(完)

●配布玩具の説明(承前)

記者

○自一歳至三歳男兒
1 改良太鼓 ブリキ製で首にかける様になつて居る、上方にシンバルが付いてゐて之を上から押す

と下方に出でゐるばかりが自ら太鼓を打ちて、シンバルと太鼓とが同時になる様になつてゐる、最近に出来たもので、極小さい子供に適當である。
②電車積木 之は餘り新しいものではないが電車が出来る様になつてゐる、自分では出来ないかも知れないが、無闇に積むのでもよい、又側から積んで見せると之をこわしたがるであらう、壊させるのも一つの慰である。

○自一歳至二歳女児
ミス 之は大阪製で種類が澤山ある、本紙上新築玩具の紹介の處で一度説明したことがあるから略す。

○自三歳至四歳女児
港の景色 之は名の如く港の景色が紙製できれいに出来てゐる、其側方に輪があつて之を手で廻すと景色中の船と汽車と電車が甘くくるく廻る、極静な觀察玩具で危険の恐れなく、又出来も割合に丈夫である。

○四歳男児
鐵道玩具 厚紙を打ち抜いたもの、下にぶりきで

立てられる様に臺が付いてゐる、其の種類には實に色々なものが這入つてゐる、先づ機關車一、列車四、人形十五其の他とんねる停車場、踏切、改札口、ポイントまでが揃つてゐる、種々に列べて模倣遊戯に用ふことが出来る、餘程價值ある玩具であると思ふ。

○自五歳至八歳男女
駒木片(一名指頭練習器) 大小不同の木片が種々様々な多角形に作つてあつてそれが六色に塗つてある至つて簡単な様なものであるが使用するとなると簡単なものが却て變化が多い、使用の方法は

1 指頭にて一端を押し轉がして他の形のものに重ね掛けることが出来ると其の下のものを取る
云ふ競争遊戯に用ゐられる二人でも多人數が二組に分れていもやれる之はよく將基の駒で遊ぶことである。

2 澤山を山の如くに積み重ねて置いて一本の指頭で音をさせない様に漸次くづし取る音がすると次の人の番になる之も競争遊戯に用ゐられる。
3 漸次高く積んで行くあぶない處で止つてゐる處

に興味がある甘い〜と拍手喝采をする處であ
る。

4 一片に多くの面があるが何れの面を底として

も立つ併し甘くやらなければ容易に立たない面

がある此の立つた時も拍手の時である澤山の木

片を適度の間隔を取つて立て、おいて一端のを

倒すと所謂將棊倒しが出来る。

5 甘く並べると幅一寸五分の長い棒になる所謂推

理的玩具になる。

6 色を教へることも出来る。

以上六種の用法があつて指頭の練習には之に過ぎ

る玩具はないと思ふ、本會の考案品で今回初めて

作つたものである、一般幼稚園の恩物として興味

の點から云ふも又價值の上から云ふも最も適當し

たもので一般に用ひて貰ひたいと思ふ。

○自九歳至十歳男

手工用具包 之は新案特許の極便利な布製の用具

包に小刀、コンパス、三角定規、千枚通、鋏、へ

ラ等小學校にて用ふる手工用具の凡てが入れてあ
る、之に收めておけば携帶が極便利で道具が損せ

ず整頓がよく出来て誠に便利である。

雜 錄

○第五回常會は去月九日附屬幼稚園内に開

會せり、當日は豫て宿題となり居たりし幼稚園に

於ける幼兒の躰方に就いて會員各自の實行談あり

學習院女學部附屬の幼稚園に於ける實況は野口幽

香氏之を話されたり、話中、一般幼兒の非常を戒む

る爲めに小さき振鈴を當直保姆袂にして隨時必要

なる時之を用ゐ居らるゝことは頗る異彩を放つて

面白く感じたり、其他番町幼稚園の後藤氏精華及

高輪の兩鈴木氏などとりへんに話され頗る實際に

有益なるものなりき、次回には本號廣告の如く觀

察的方面に就いて又々充分なる實驗談を發表せら

れんことを望む。

○新なる慈善的幼稚園 文部省が努めて此種の幼

稚園の設立を獎勵する丈、漸次其必要を認められ地

方の熱心家に因つて夫々實現の時機に達したるは
喜ぶ可し、近頃鹿兒島市に於ても同様の計畫あり

次の如き規則を設けて一個の慈善的幼稚園は出来たり、我國下層民の爲めに悦ぶ可きことに屬す。吾人は他地方に於ても速に同様なる計畫あらんことを希望に堪へず、若し又會員諸君の附近にて同様の計畫ある由御聞込あらば一寸はがきにて御通信あらんことを望む。

私立佛教二葉園規則

第一條 本園ハ私立佛教二葉園ト稱シ戸別等級二十二等ヨリ二十五等迄ノ労働者ノ兒童滿三歳ヨリ學齡ニ達スル迄ノ幼稚者ヲ收容シ無報酬ニテ保育シ一面父兄労働ノ便益ヲ謀ルヲ以テ目的トス

第二號 本園ノ課目ヲ分ツ事左ノ如シ

- 一、遊戯 園兒各自ニ運動セシメ又歌曲ニ合ヘル諸種ノ運動等ヲ爲サシメ心情ヲ快活ニシ身體ヲ健全ナラシメン事ヲ期ス
- 一、唱歌 平易ナル歌曲ヲ唱ヘテ心情ヲ快活純美ナラシメ兼テ徳性ノ養ニ涵養セン事ヲ期ス
- 一、談話 有益ニシテ興味アル事實及寓言若シクハ通常ノ天然物及加工品等ニ付キテ徳性ヲ涵養シ觀察注意ノ能力ヲ養ヒ兼テ發音ヲ正シクシ言語ヲ練習セシムル事ヲ期ス
- 第三條 本園收容園兒ノ定員ハ一百人トス
- 第四條 保育遊樂時間ハ一日八時間以内トス
- 第五條 入園ヲ請フ者ハ本園規定ノ書式ニヨリ保護者又ハ其代人ヨリ願出テ許可ヲ受クベシ退園ノ時モ亦同シ
- 第六條 園兒若シクハ其保護者ニ於テ轉居又ハ園兒缺席ノ時ハ直ニ届ケ出ツベシ

第七條 本園ノ維持法ハ發起人ノ贈金又贊助員ノ義財ヲ以テ之ニ充ツ

- 一、名譽贊助員ハ毎月金壹圓及五拾圓以上ノ義財者
- 一、特別贊助員ハ毎月金五拾錢又ハ年額五圓以上ノ義財者
- 一、普通贊助員ハ毎月三拾錢又ハ年額參圓以上ノ義財者
- 一、毎月金拾錢又ハ年額壹圓以上ノ義財者ハ賛成員トス
- 第八條 本園ニ左ノ役員ヲ置ク
 - 一、園主 一名
 - 一、理事 四名
 - 一、保母 三名以上
 - 一、會計 二名
 - 一、園醫 若干名
 - 一、評議員 若干名
- 第九條 本園ニ名譽家ヲ名譽顧問ニ仰ギ若干名ノ顧問ヲ推戴ス
- 第十條 毎月八日午後七時ヨリ父兄會ヲ開キ顧問及先輩諸彦ノ出席ヲ仰ギ兒童保育上ノ心得及諸種ノ講話ヲ請フモノトス
- 第十一條 本則施行ニ關スル細則及役員ノ職責ハ別ニ之ヲ定ム

謝 告！ 編輯係より

前々號以來編者殊の外なる多忙と種々なる事故とに妨げられ、加へて近來頗る執筆に懶かりし爲め每號お伽話の掲載を欠き何とも恐縮に堪えず。切に會員讀者諸君の御寛恕を祈る。來號よりは復々、出精、努めて、諸君の御好意に酬いんことを盟ふ。

廣 告

小生儀今般肩記の處に轉居致し候、略儀ながら誌上を以て此段辱知諸君に謹告す

小石川區竹早町三四(舊番地ハ七十二)

和田 實

(竹早町女子師範より一町半程先き時計屋と鳥屋との小路の最奥)

● 幼稚園恩物

謹告

(二十恩物并
に號外恩物)

附、動植物標本、遊戯具、樂器、

机腰掛等幼稚園用品一切

幼稚園長並に保姆各位愈御清榮被爲涉
奉賀候小店去二十七年恩物商開始以來各
位が多の御同情を以て續々御用命被
下候結果只今の所内地各府縣は勿論遠
く海外に迄小店製品の擴がるに立至り
候段實に意外の仕合と深く奉謝候隨て
今後尙各位の御指導により品質を吟味
し價額を低廉にし誠意誠心を以て恩物
商の責任を盡し度存候間何卒倍舊の御
愛顧賜り度吳々御願申上候 敬具

天真堂が乍不及常に面白き工夫を恩物に加へ
んとしつゝあるは各位の御諒知被下候事と存候
天真堂の主義は品良價廉に有之候
幼稚園御創立の節は特に便宜相圖り可申候
天真堂恩物の送荷法には便法有之候
天真堂は恩物の外に手工科用品、理科器械、
體操用具等を販賣致居候
大阪東區島町三丁目

品教育

天真堂

電話東五〇九六
振替大阪一一四九

店主清水常次郎

幼稚園事業に滿腔の興味を持
てる商店ありや

幼稚園の恩物材料を眞に研究
せる商店ありや

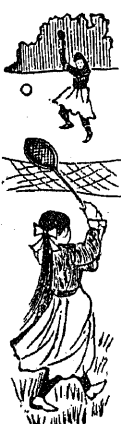
幼稚園の教材をフレイベル氏撰定の
もの以外に見出さんと焦慮
せる商店ありや

幼稚園の恩物材料を家庭に用
あしめんと勤めつゝある商
店ありや

恩物材料は高價いものてふ
を破らんと努力せる商店ありや

九段中坂上に
フレイベル館あり

振替口座一九六四〇



各女學校御用

美術造花材料一式

半製品及鋸打拔類

摘細工材料

絹縮緬及
金銀モール
寫真臺紙柱掛

瓶細工材料

刺繡用絲及針

東京市本郷區眞砂町十五番地

卸小賣 百花堂 木村喜兵衛

●地方御注文ハ代金引替ニテ郵送ス營業目錄御報次第郵送ス

明治四十二年十一月一日印刷
編輯兼東京市小石川區竹早町七二
和 田 持 直 印刷者 東京市本所區番場町四番地
守 岡 功 發行所 女子高等師範學校内
フ レ ー ン 會